

山の土地利用のシナリオに関する研究

1230405 天野 美夢

指導教員 中川 善典

研究背景

自然が多く残る場所で長期的に人間の経済活動のあり方を考えていくには、人口減少や自然環境変化が起こるなどのオプションを考えていく必要がある。このような問題意識を持った先行研究では、多くの場合、土地利用シナリオを作り、それを評価していく。しかし、多くの利害関係者が山の土地利用の問題に関わってくるため、私は既存研究よりさらに限定的に山だけに特化したシナリオを評価することが有意義であると考えた。

研究目的

高知県を対象として、次の2つのリサーチクエスチョンに答えることを通じて、より一般に山の土地利用シナリオについての知見を得る。

Q1 山の土地利用に関するシナリオを選択するための評価基準は幾つあり得るか？

Q2 個々人によって評価基準間の重み付けの仕方はどの程度異なるのか？

研究方法

諸シナリオを作成し、評価基準を設定する。各評価基準に基づくオプション間の相対的な評価については、筆者が評価する。アンケート調査では、学生3名を対象に、「AHPのフォーマットを用いた、評価基準間の重み付け」と「諸シナリオのうち個々人が思い描くシナリオの選択」という2つの調査を行うこととする。

分析結果

3つの発見があった。第一に、同じ基準を高く評価したり、回答者によって同じ基準に対する評価が顕著に異なったりした。第二に、諸シナリオから回答者に思い描くシナリオを決めてもらったが、3名中2名がAHP分析の結果と整合性は得られなかった。第三に、諸シナリオから思い描くシナリオを選択する調査が難しい傾向があったため、回答者によってはAHP分析の方が正確な分析である可能性も示唆された。

考察・結論

本研究では、評価基準として全9つを設定した。森林機能だけではなく、シナリオ間に優劣をつけるために補助金の削減や合意形成の容易さを加えた。また、作成したシナリオによって判断するが助けられたり役に立ったりしたという感想が多数あり、この諸シナリオは山の土地利用という問題の解決に応用できると期待できる。また、土地利用シナリオを的確に評価するには複数の基準が必要であると言える。